

名像とやぐら、石仏の古刹

浄光明寺

じょうこうみやうじ

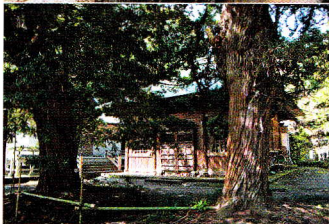
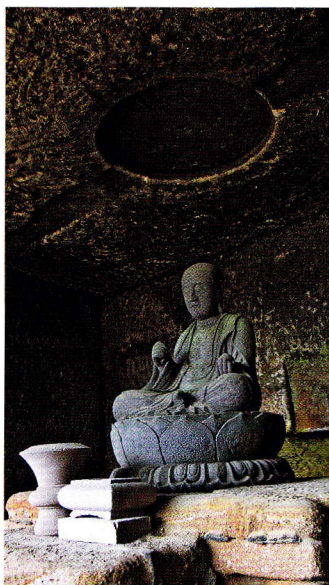
定められた日時に参詣すれば、収蔵庫に収められた阿弥陀三尊像（重文）を拝することができる。

中尊の阿弥陀像は、張りに満ちた面部と意志的なまなざしが印象的で、宝冠や胸前で結ぶ上品中生の印紋様をくつきりと残す土紋など、ほかにはない特徴をそなえている。いっぽう脇侍の二菩薩像は、流麗な衣文を描く女性的なたたずまいが魅力だ。ここでは掲載がかなわなかったが、まさに鎌倉を代表する名像のひとつである。

また、小像ながら、かたわらの厨子に収まる地藏菩薩立像も見がせない。金泥の地肌や着衣の紋様を今もとどめ、なまめかしい印象すら与えるお姿だ。左足をやや前に出し、視線を左前方に向けるさまは、衆生救済に一步踏み出す瞬間をあらわしているようにも見え、興味深い。

写真 川航太

境内裏山のかつて石窟の仏堂だったと思しきやぐらに、正和2年（1313）と銘記された古石仏が残る。



鎌倉仏を代表する三尊像は ぜひご自身の目で

榎の大木を配して鎮座する本堂。重文の阿弥陀三尊像は保護のため、写真左の収蔵庫に奉安されている。

浄光明寺（真言宗）

鎌倉市扇ガ谷2-12-1 ☎0467-22-1359 ●JR鎌倉駅西口より徒歩15分
◎拝観情報＝収蔵庫の拝観は、木・土・日・祭日の10～12時、13～16時。拝観料200円。雨天多湿の日は拝観を中止するほか、8月は拝観休止。

地藏菩薩立像（矢拾い地藏）

木造。像高約74センチ、南北朝時代。もとは足利直義が護良親王の鎮魂のために建立した慈恩院の本尊。収蔵庫に安置。直義の守り本尊で、右手に矢柄の銀杖を持つ。

